

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2025年2月)

2025年2月4日

調査部 副主任研究員

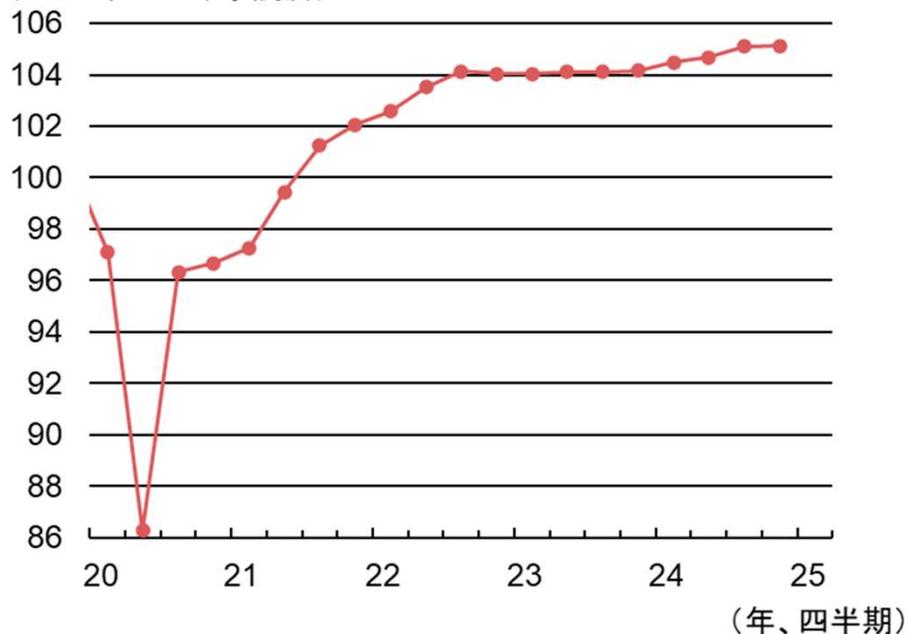
土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は足踏みしている

ユーロ圏の10-12月期の実質GDP(速報値)は前期比横ばい(年率+0.1%)と、増勢が失速した。スペインが堅調(前期比+0.8%)を維持したが、イタリアは横ばいが続き、ドイツ(同▲0.2%)とフランス(同▲0.1%)がマイナス成長となった。一方、最新1月の景況感指数は95.3と前月(93.8)から上昇も、均した動きは横向き。

実質GDP

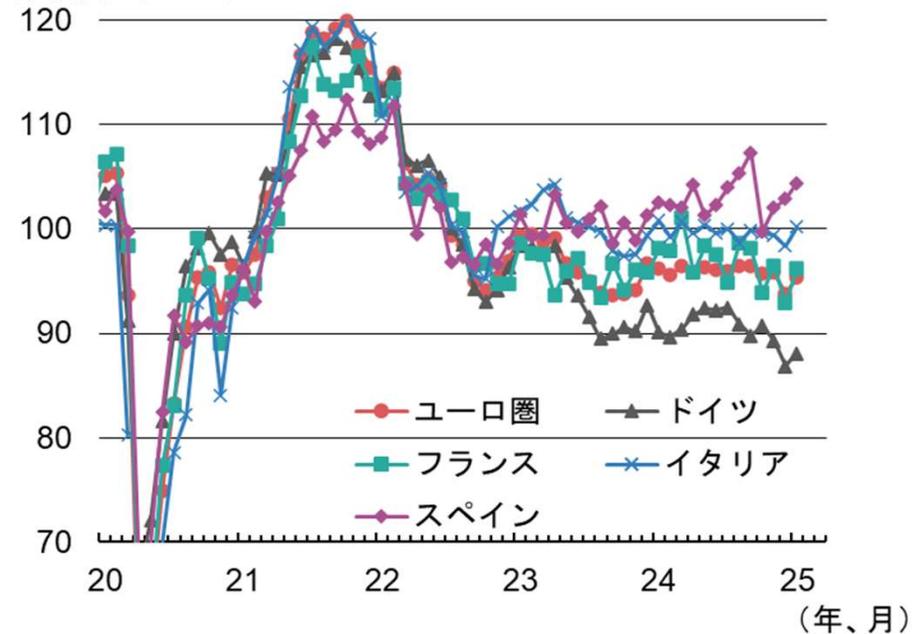
(2021年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)



(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は減少している

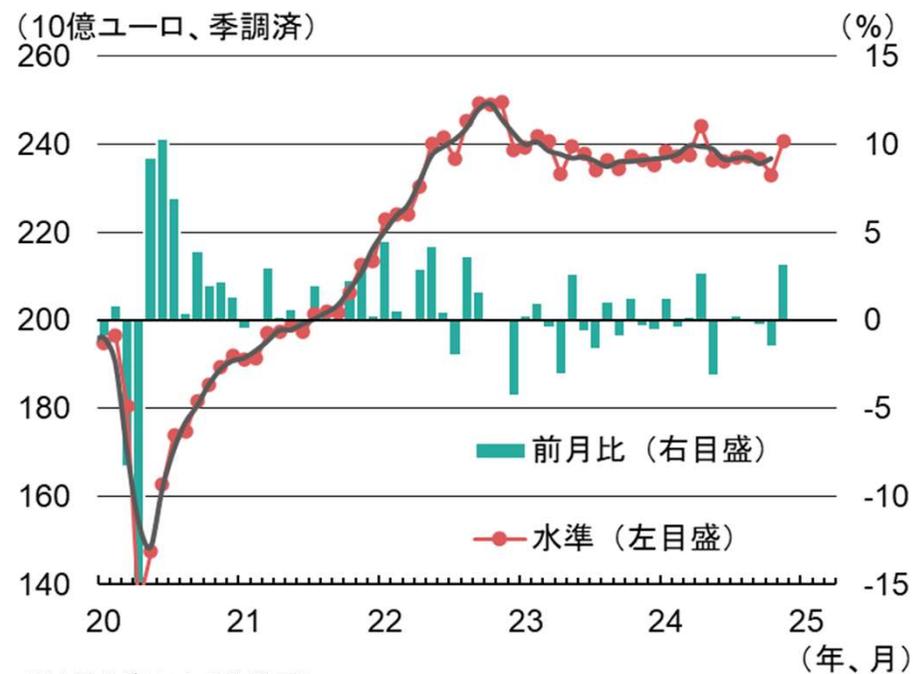
ユーロ圏の11月の鉱工業生産は前月比+0.2%と2カ月連続で増加したが、均した動きは下向き。一方で、同月の名目輸出は同+3.2%と3カ月ぶりに増加し、均した動きは横向きに。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は足踏みしている

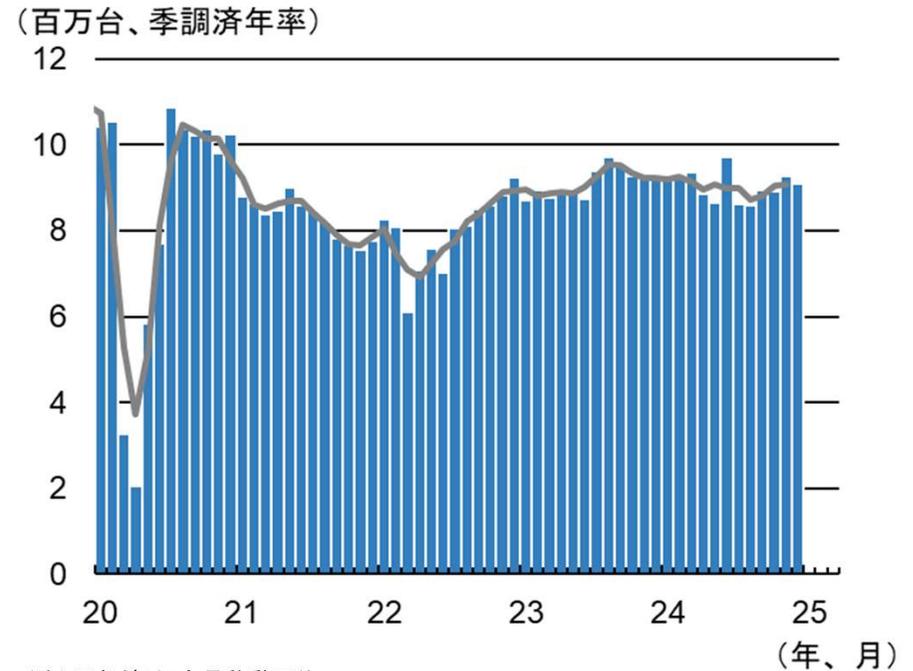
ユーロ圏の11月の小売数量は前月比+0.1%と再び増加したが、均した動きは横向き。一方で、12月の新車販売台数は前月比▲1.9%の年率909万台となり、均した動きは横向き。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

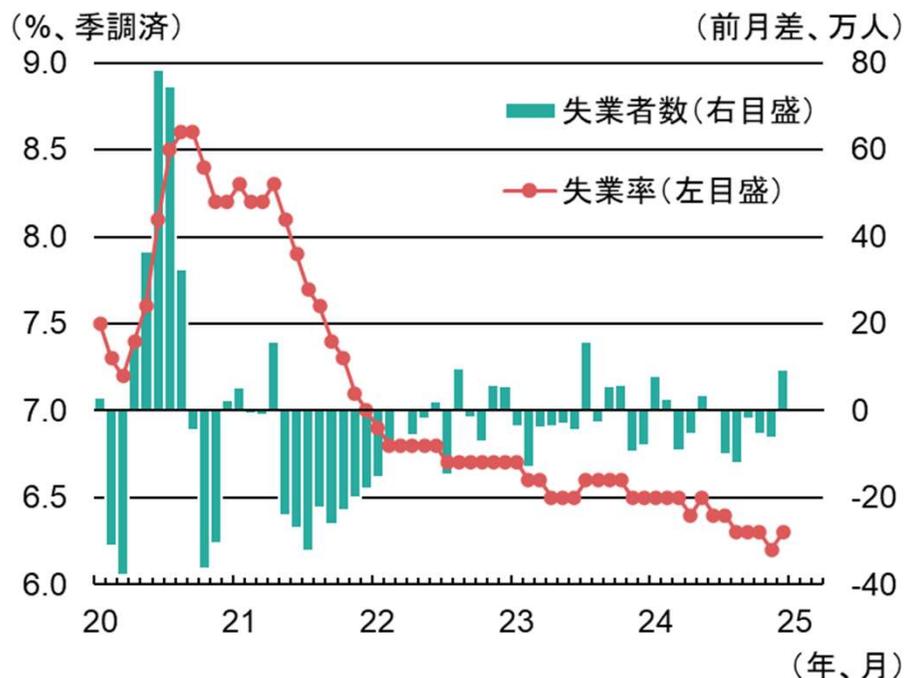


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善が一服

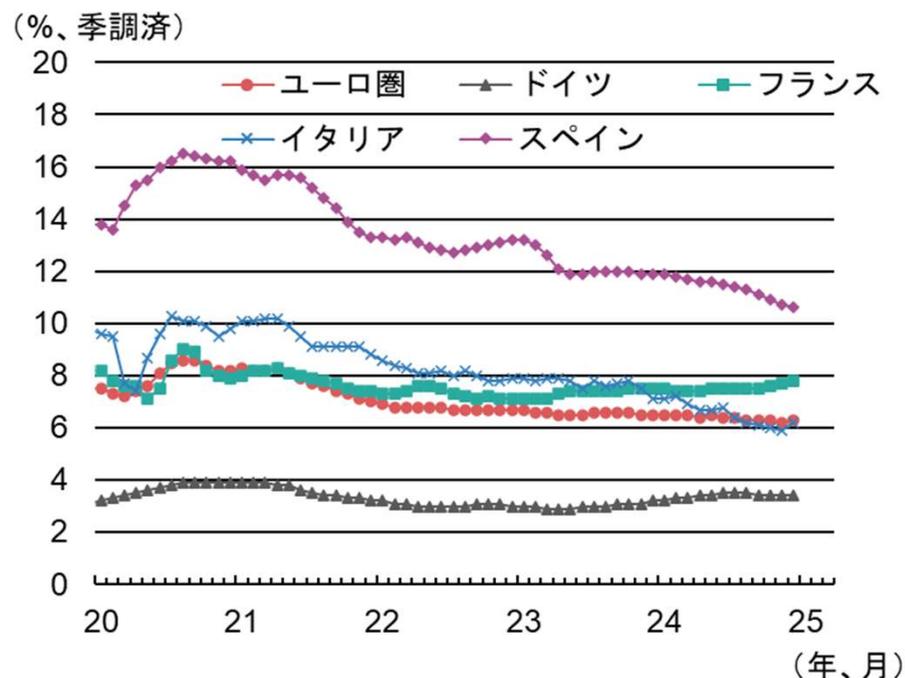
ユーロ圏の12月の失業率は6.3%と再び上昇した一方で、同月の失業者数が前月差9.6万人増と6月以来の増加に転じたため、雇用は改善が一服したと判断される。主要国別に失業率を見ると、ドイツやフランスが緩やかな上昇トレンドである一方で、イタリアやスペインは緩やかな低下トレンドである。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

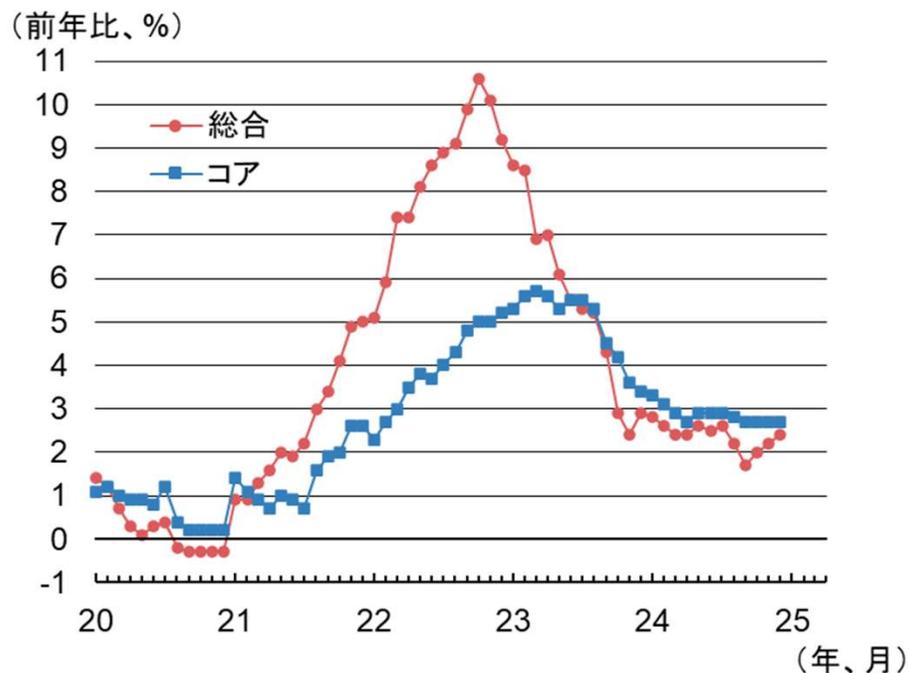


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは安定している

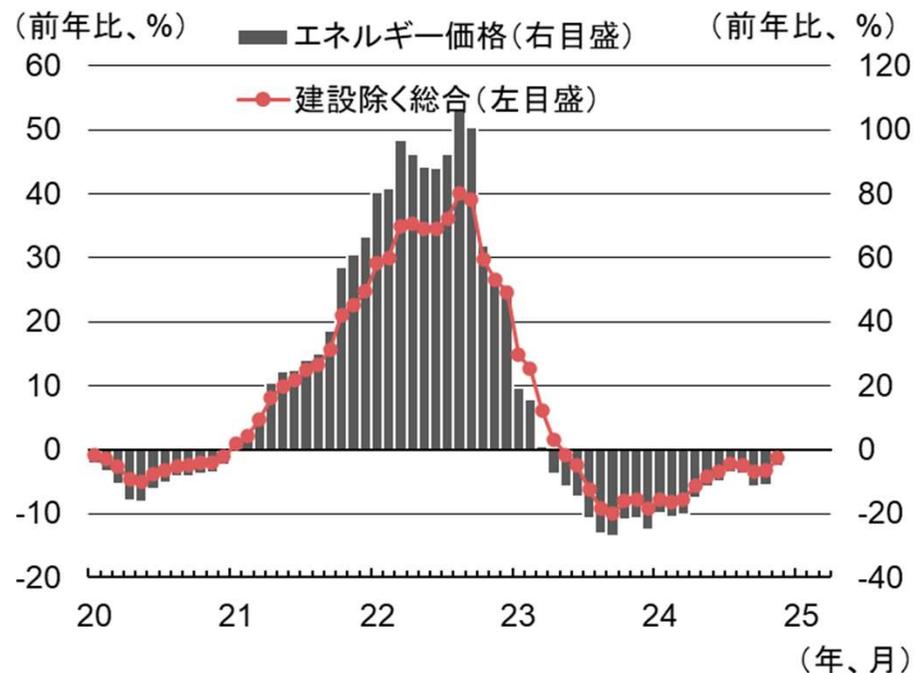
ユーロ圏の12月の消費者物価は総合ベースで前年比+2.4%と、3カ月連続で伸びが加速した。一方で、変動が激しい項目を除いたコアベースは同+2.7%と4カ月連続で同じ伸び率であったため、インフレは安定していると判断される。また生産者物価(建設除く総合)は11月時点で前年比▲1.2%と、18カ月連続で前年割れとなった。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

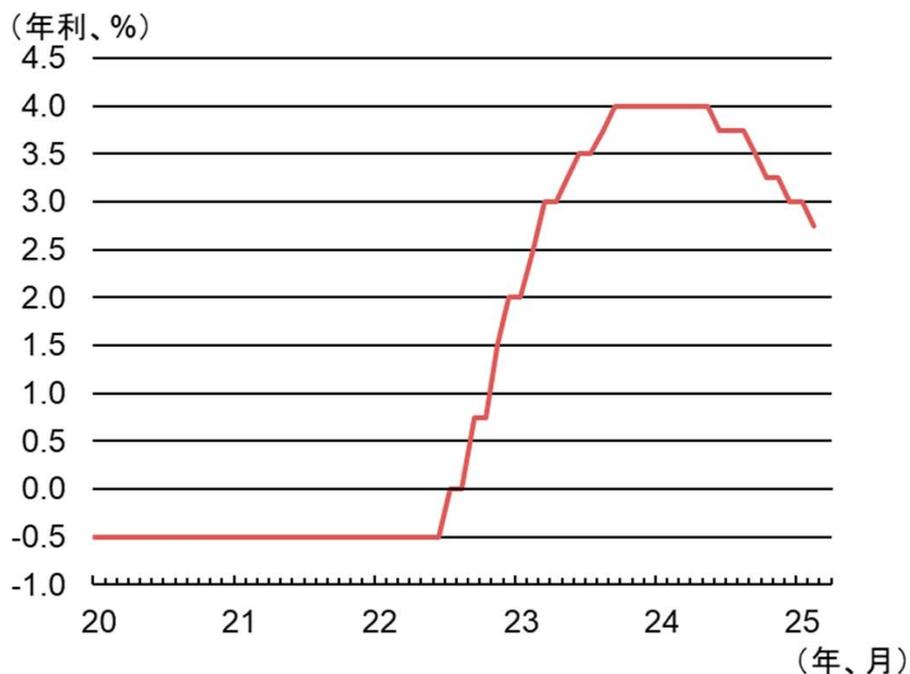


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは1月理事会で追加利下げを実施

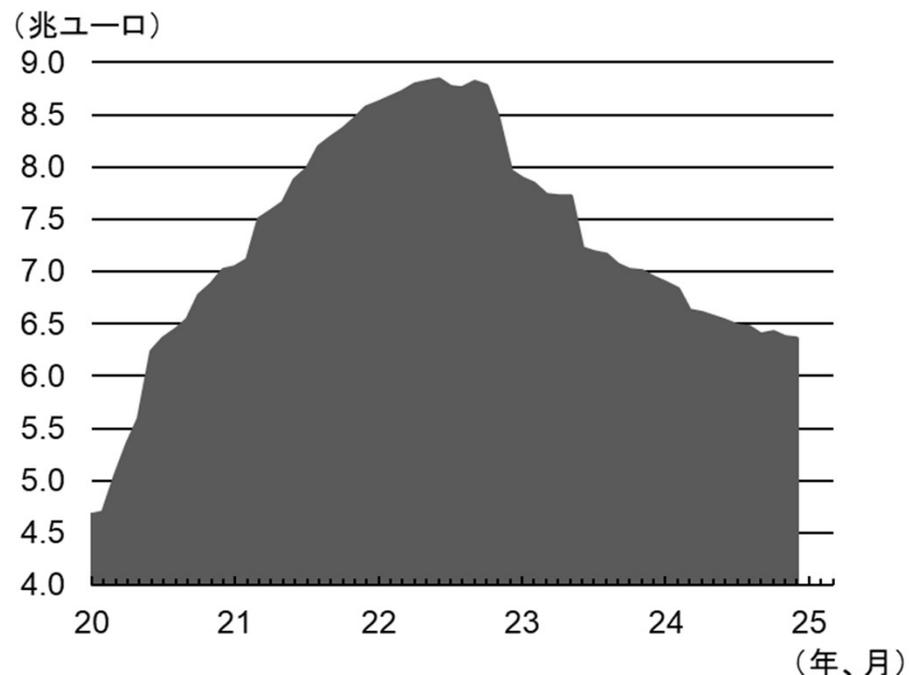
欧州中央銀行(ECB)は1月30日の理事会で、事実上の主要政策金利である預金ファシリティ金利を0.25%ポイント引き下げ、年2.75%とした(適用は2月5日より)。ECBはインフレが予測通りに鈍化しているとして、引き続きデータを踏まえつつ、追加利下げを行う方針を示した。次回の理事会は3月6日を予定。

政策金利(預金ファシリティ金利)



(出所) ECB

ユーロシステムのバランスシート

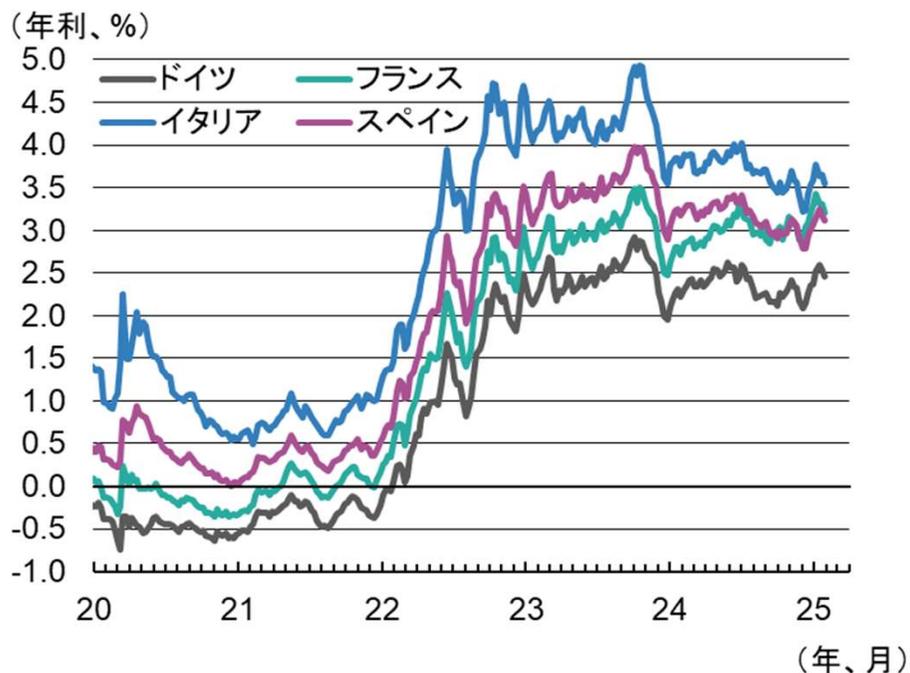


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は低下、株価は上昇

1月のユーロ圏主要国の長期金利は低下した。米金利低下の流れに加えて、ECBによる追加緩和観測などが各国の金利を押し下げた。一方で、同月の株価は上昇した。トランプ新大統領による経済政策への不透明感が後退し、相場が上昇した。

10年国債流通利回り



(出所)各国中銀

株価(Eurostoxx50)

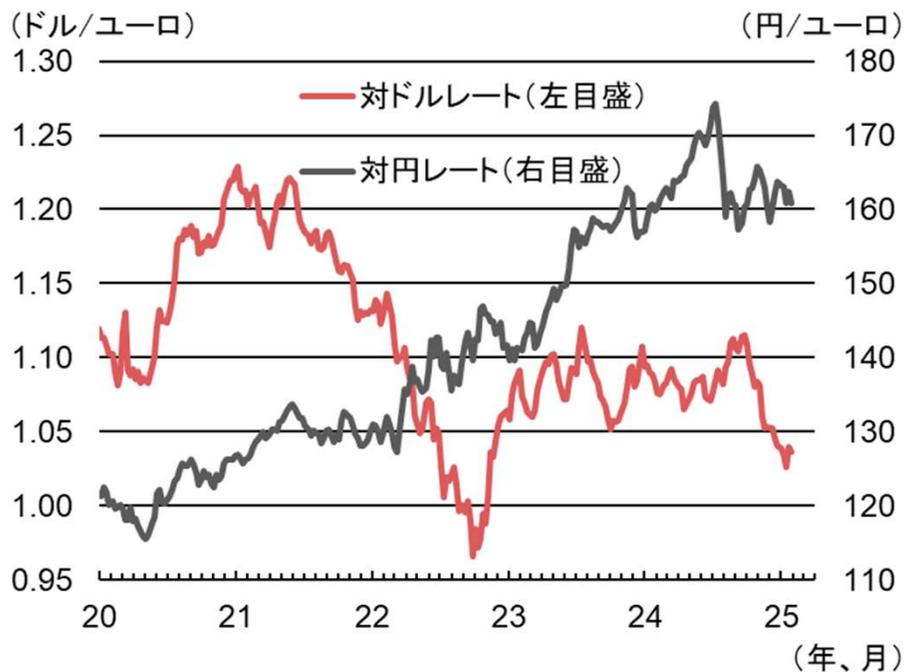


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで上昇、対円で下落

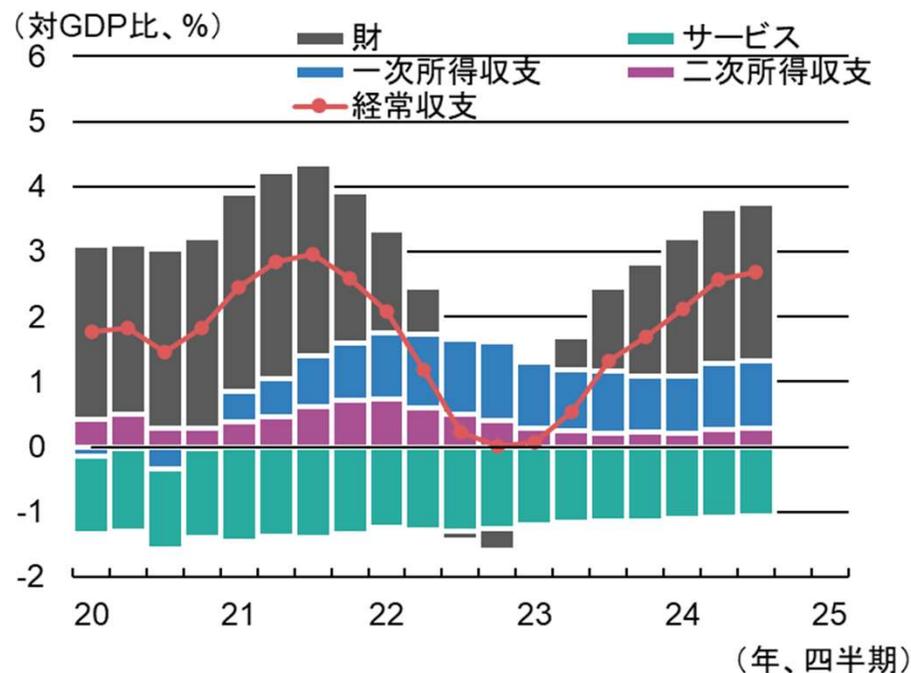
1月のユーロ相場は対ドルで上昇、対円で下落。対ドルでは、米国の通商政策に対する不透明感の後退から、ユーロ高ドル安が進んだ。一方で対円では、日銀が追加利上げを実施したことなどからユーロ安円高となった。経常収支は財収支(貿易)黒字が拡大しており、実需面からのユーロ買い圧力が徐々に強まっている。

ユーロ相場



(出所) ECB

経常収支



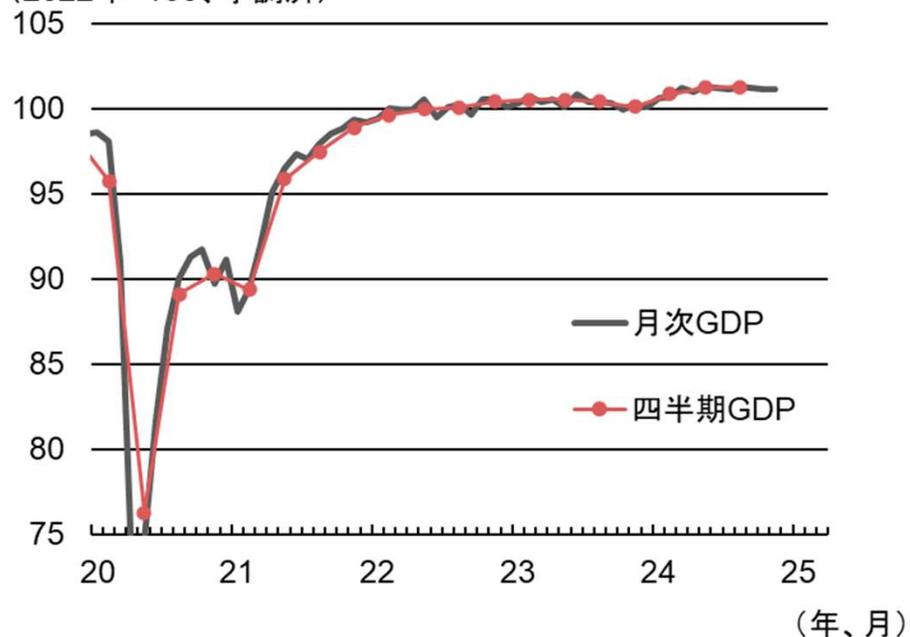
(出所) ECB、ユーロスタット

英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の7-9月期の実質GDP(確定値)は前期比横ばいと、速報値(同+0.1%)から下方修正された。主要な需要項目別には、個人消費と総固定資本形成がプラスを維持した反面で、輸出のマイナスが続き、景気を下押しした。一方、11月の月次GDPは前月比横ばいとなった。

実質GDP

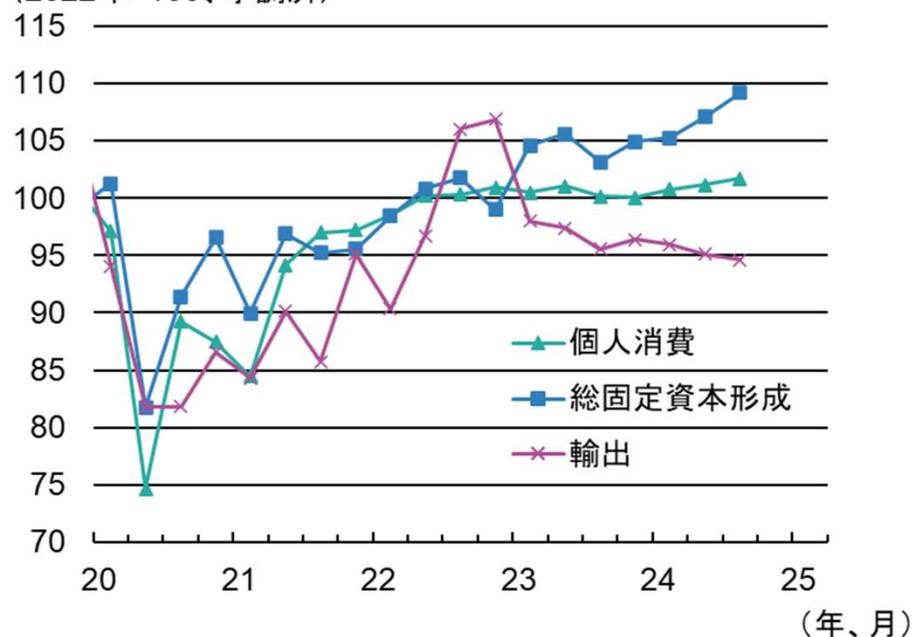
(2022年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2022年=100、季調済)

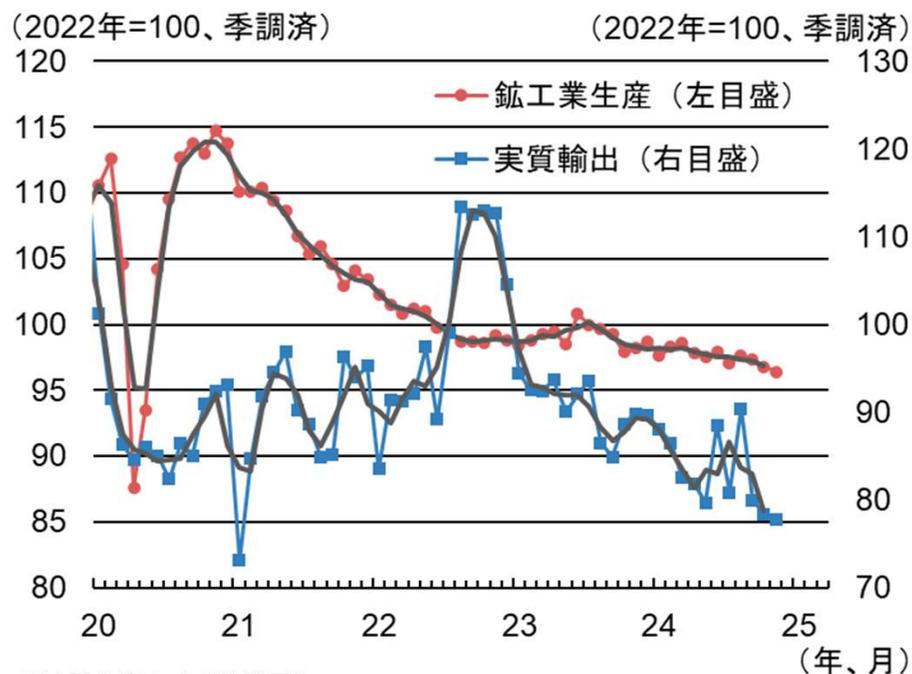


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は減少している

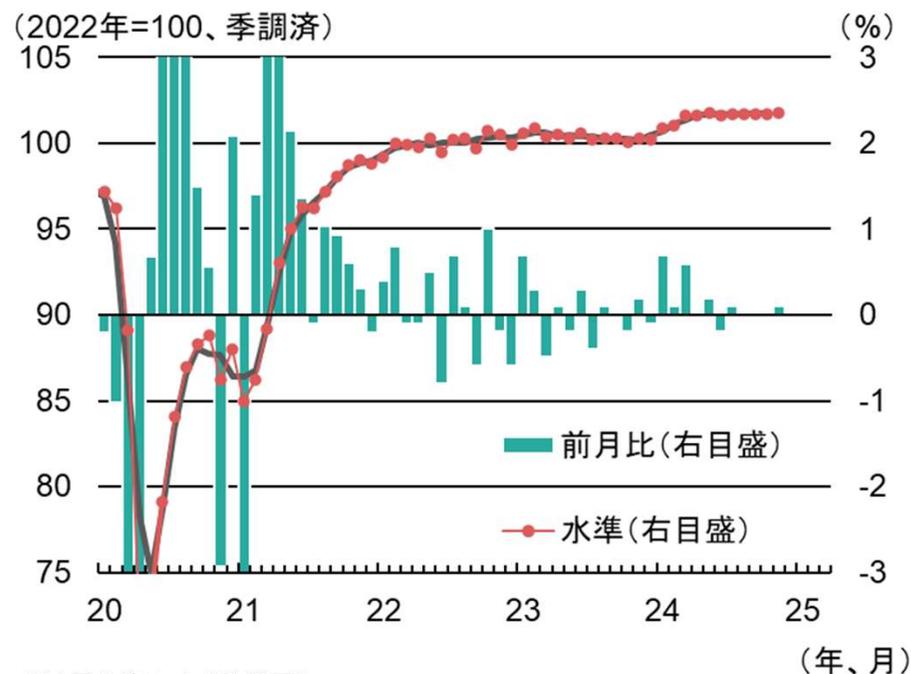
英国の11月の鉱工業生産は前月比▲0.4%と3カ月連続で減少し、均した動きは下向き。一方、同月の実質輸出は同▲0.7%と2カ月連続で下げ幅を縮小させたが、均した動きは下向き。他方で、11月のサービス業生産は前月比+0.1%と4カ月ぶりに増加したが、均した動きは横ばい。

製造業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

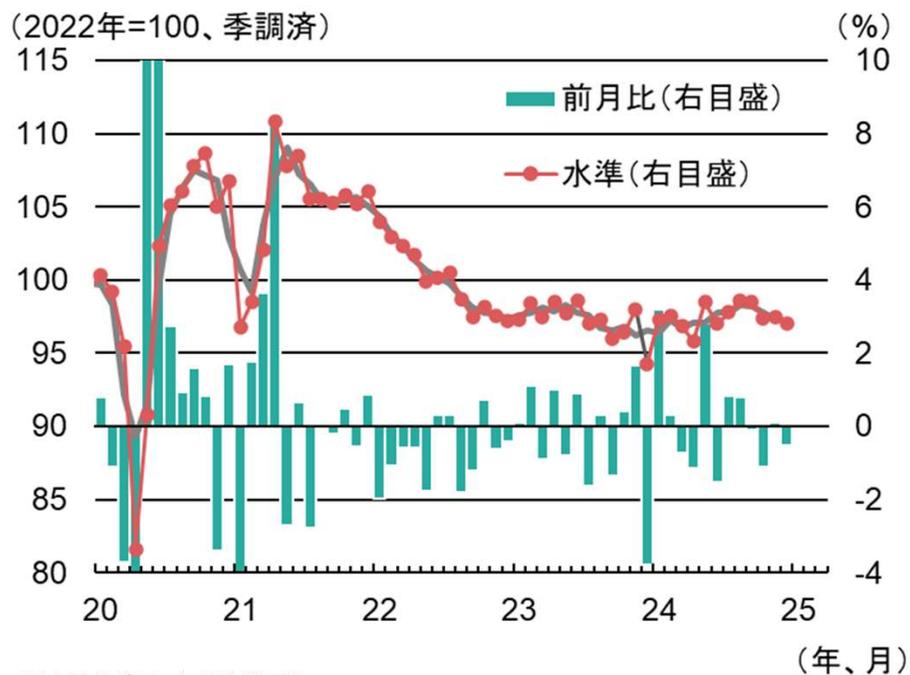


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は足踏みしている

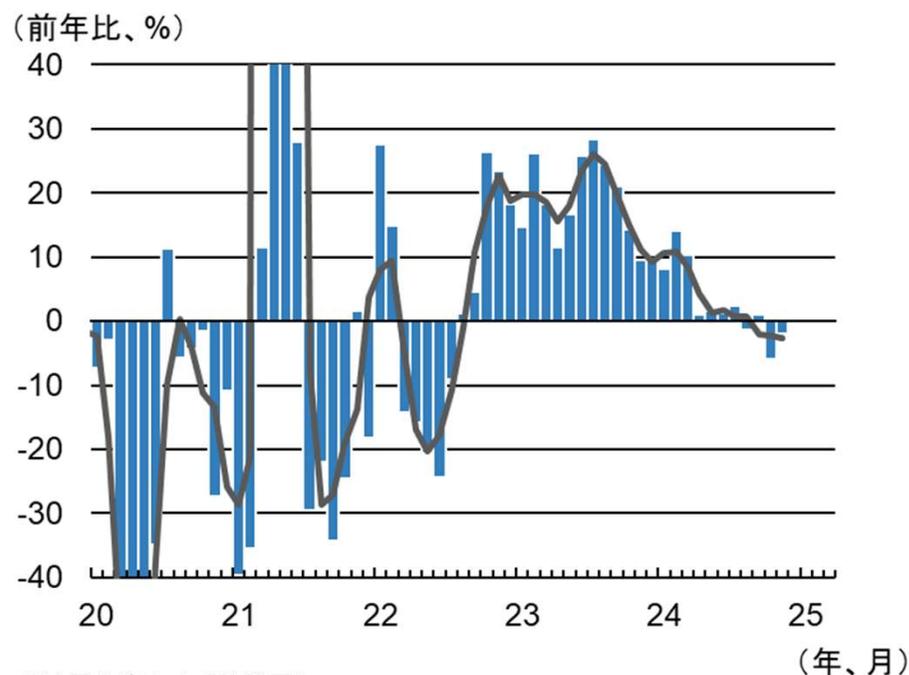
英国の12月の小売数量(除く石油)は前月比▲0.5%と再び減少し、均した動きは横向き。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比▲0.2%と3カ月連続で前年割れとなり、市場は縮小傾向。新車市場の規模は年率で190万台半ば。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

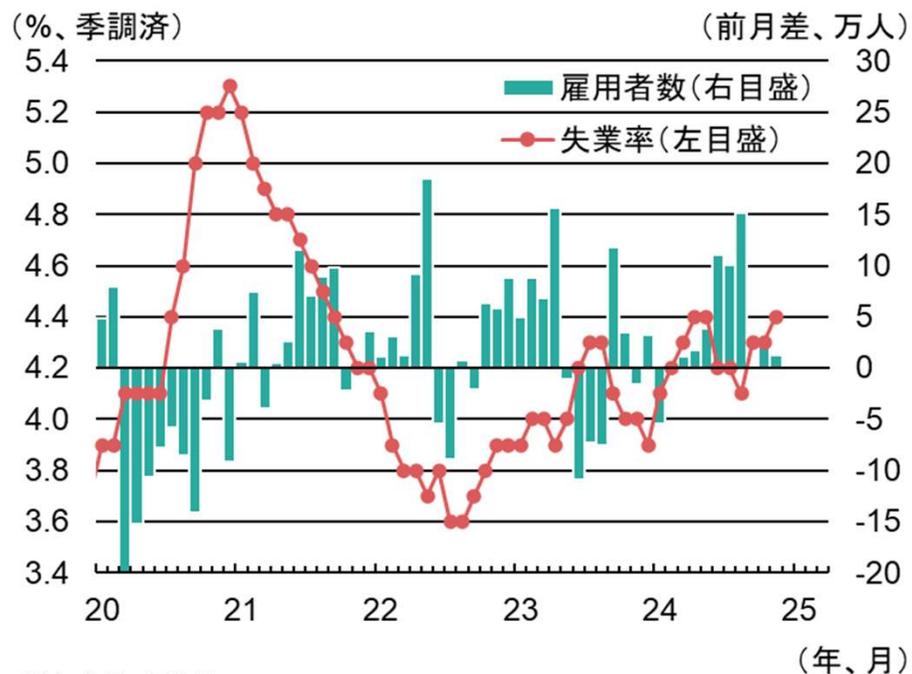


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会(SMMT)

英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

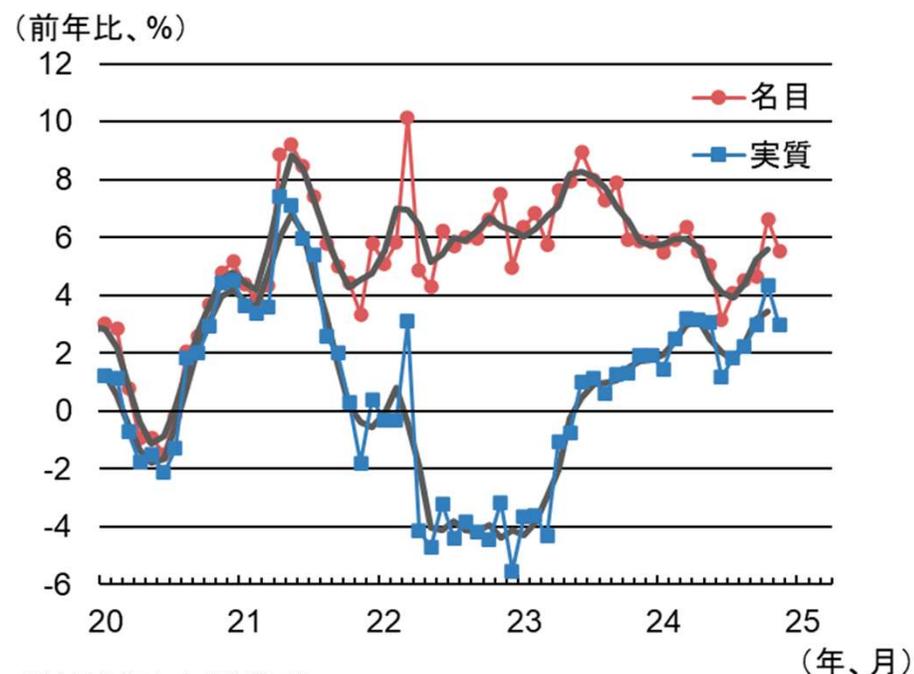
英国の11月の雇用統計は、失業率(9-11月期平均)が4.4%と前月(4.3%)から上昇した。一方で、雇用者数は前月1.3万人増と10月(同2.1万人増)よりプラス幅が縮小しており、雇用は改善が足踏みしている。他方で賃金の動きは、名目ベースだと前年比6%近くまで増勢が加速し、また消費者物価で実質化した実質ベースでも同4%台近くまで増勢が加速した。

失業率



(注)3カ月の平均値
(出所)ONS

平均賃金(週給)

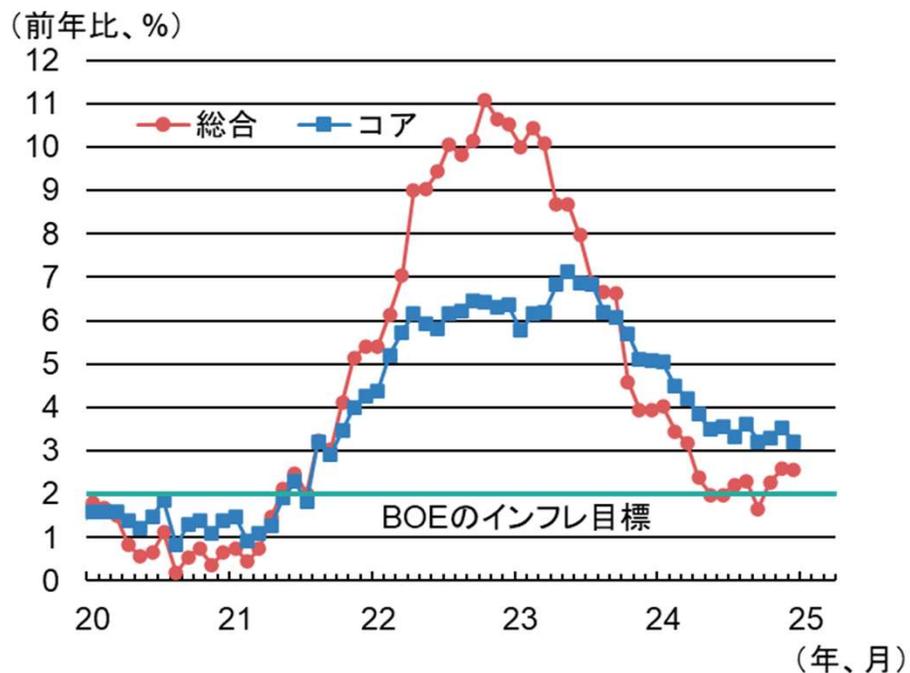


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況⑤ インフレは安定している

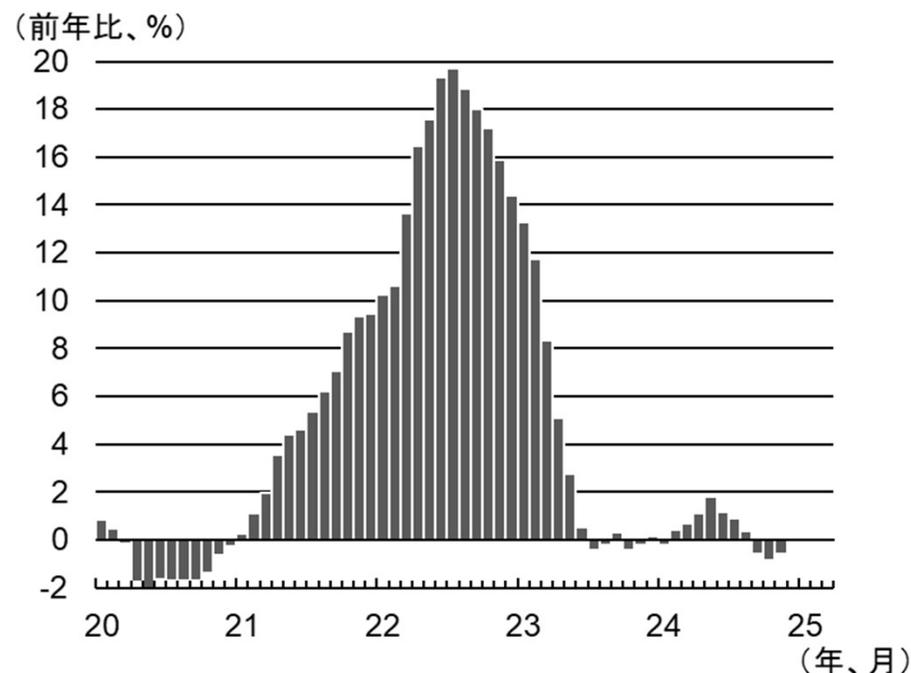
英国の12月の消費者物価は、総合ベースが前年比+2.6%と前月から横ばい。また変動が激しい項目を除いたコアベースは同+3.2%と伸びが再び鈍化したため、インフレは安定していると判断される。他方で、消費者物価の先行指標となる生産者物価(産出ベース)は、11月時点で同▲0.6%と3カ月連続で前年割れとなった。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価

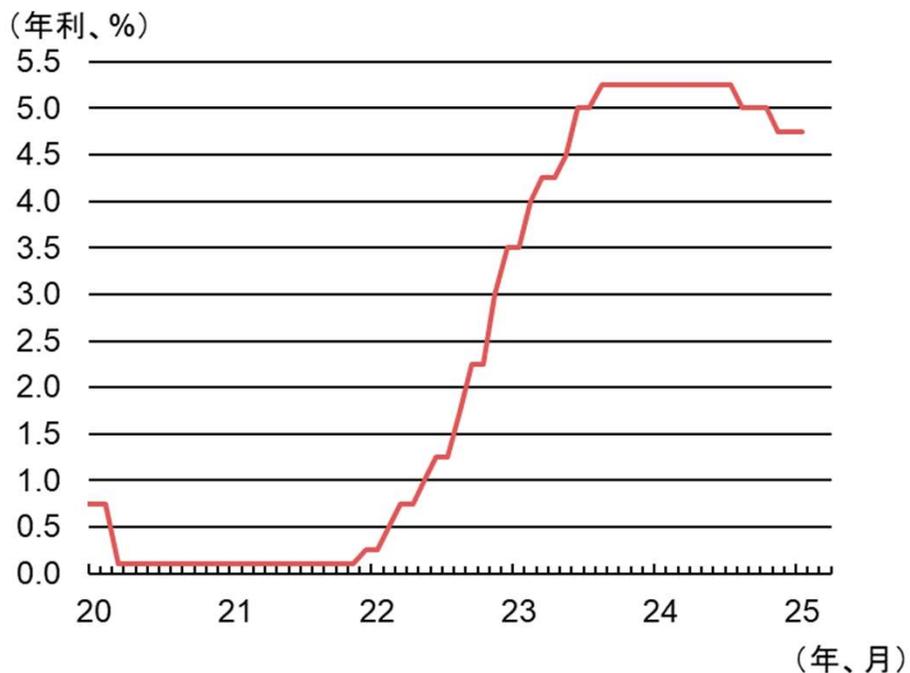


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEの2月委員会での利下げは五分五分

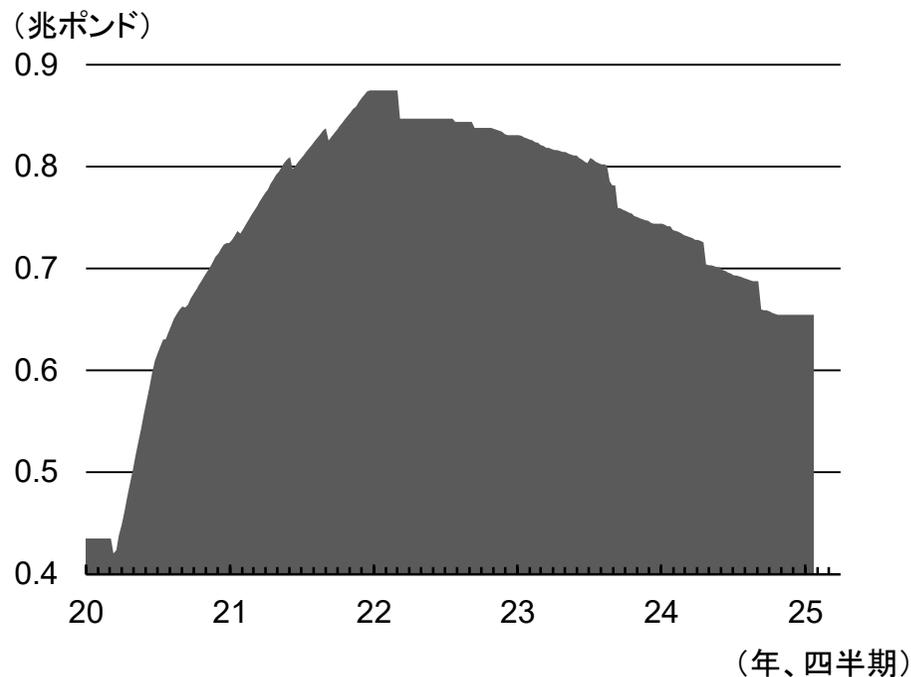
イングランド銀行(BOE)は2月6日に金融政策委員会(MPC)を開催するが、年4.75%の政策金利が据え置かれるか引き下げられるかは五分五分。BOEは、労働党政権による拡張型の財政運営が物価の安定に与える影響を見極めながら、追加利下げを慎重に模索すると考えられる。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高



(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は低下、株価は上昇

1月の英国の長期金利は低下した。米金利低下の流れに加えて、ECBによる追加緩和観測などが英国の金利を押し下げた。一方で、同月の株価は上昇した。トランプ新大統領による経済政策への不透明感が後退し、相場が上昇した。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所)BOE

株価(FT30指数)

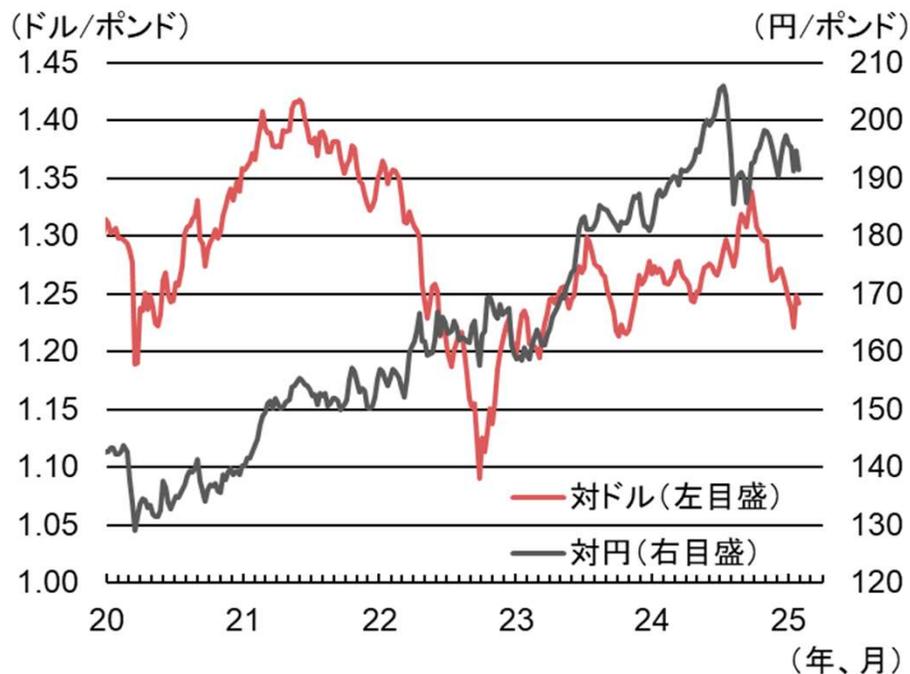


(出所)Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで上昇、対円で下落

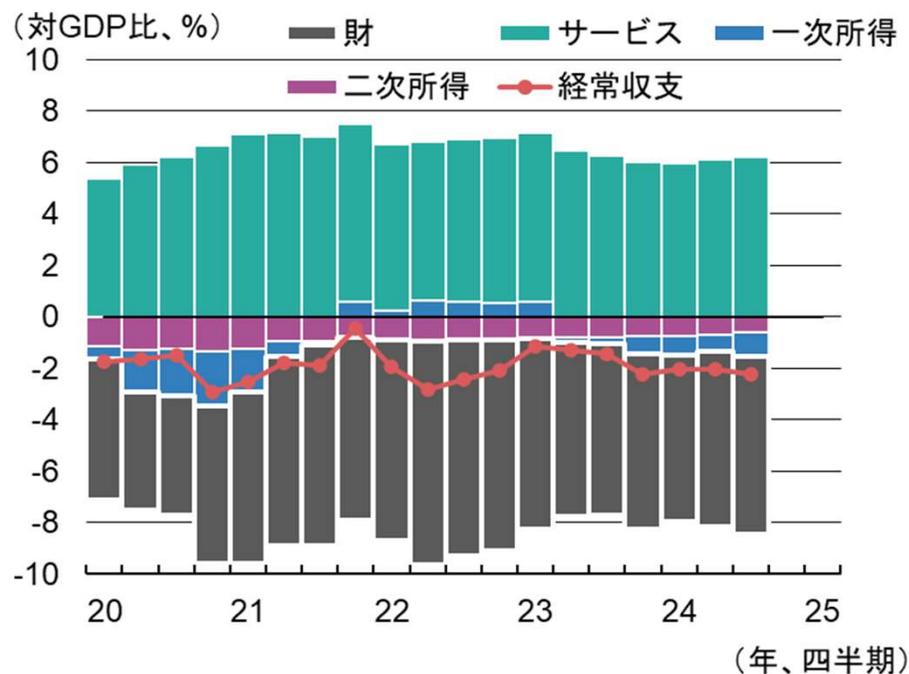
1月のポンド相場は対ドルで上昇、対円で下落。対ドルでは、米国の通商政策に対する不透明感の後退から、ポンド高ドル安が進んだ。一方で対円では、日銀が追加利上げを実施したことなどからポンド安円高となった。経常収支は赤字が緩やかに拡大しており、実需面からのポンド買い圧力が徐々に弱まっている。

ポンド相場



(出所)BOE

経常収支



(出所)BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー